

1. 7 Seminar for Intercultural Communication

—他国の実情を知り、英語で他者と共有する—（英語分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

情報化社会の現在、容易に他国の情報を入手できるが、その真偽を測ることは難しい。実際に国外の人の生の声を聞いて異文化理解をすること、また今ある英語を使って、他者と情報を共有できる能力を身につけることは大変重要である。英語によるプレゼンテーションのこつを知り、講師やグループ内でのコミュニケーションを取りながら、プレゼンテーションの作成・発表を体験する、ということを主眼におき、本セミナーを実施した。

(2) 研究開発の経緯

少人数の4つのクラスでそれぞれのクラスでイギリス、フィリピン、ニュージーランド、セネガル出身の講師より、前半はその国のことや講師自身の紹介を聞き、後半は他のクラスの生徒の前で発表するためのプレゼンテーションを作成し、全体場で発表した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は英語コミュニケーション力や外国文化への興味・関心などの「国際性」を促すことが出来る。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH英語
 対象生徒 普通科1, 2年生徒 27名
 日時場所 12月19日(土) 本校 化学講義室
 実施内容



セミナーの様子

講演

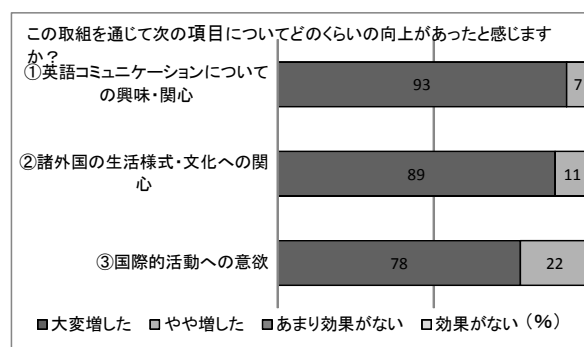
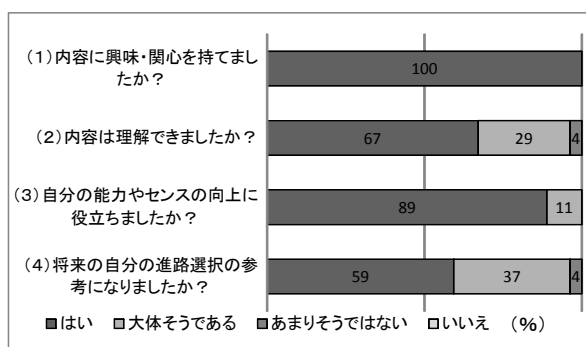
演題 「Seminar for Intercultural Communication

—他国の実情を知り、英語で他者と共有する—」

講師 コスモペース株式会社 Kazushi Muir, Reginald Salonga, ChrstipherBartlett, Michel Ndione

内容 クラスごとに講師の指導を受けながらプレゼンテーションを作成し、全体場で、発表し質疑応答をする。

ウ 検証（成果と反省）



アンケート結果や感想から、参加者は、実際に国外の人の生の声を聞いて得た情報はより深く印象に残るとともに、そこから出た新たな疑問をぶつけてみることで、異文化理解を深めることができるということ、実感することができたようだ。また、英語によるグループプレゼンテーションを行ったことも大変良い機会となった。講師の先生方から、短時間でよいプレゼンテーションを仕上げることができたことを評価していただいたことで、生徒も自信を持つことができ、今後の学習への意欲がさらに増したことが窺える。